

タイトル 須賀川の火祭り・松明あかし



エピソードや思い出、調べたこと など (200字程度)

私が初めて松明あかしに行ったのは、中学1年生の時。学生時代は松明あかしを見るだけでしたが、令和5年・6年は松明担ぎ手として祭りに参加しました。長さ10m、重さ3tの松明を担ぐのはとても大変で危険と隣り合わせです。担いだ後は、今までになったことがないレベルの筋肉痛になりますが、「地元の伝統ある祭りの一端を担っている」と思うと誇らしい気持ちになります。これからも変わらず、ずっと残っていてほしいです。(199字)

ココがポイント！(一番お勧めしたい魅力的なところ)

- 400年以上続く須賀川の伝統行事
- 俳句歳時記に冬の季語として収載されている！

作成者名(ニックネーム可)

塩田

タイトル

牡丹焚火～冬の風物詩～



エピソードや思い出、調べたこと など（200字程度）

牡丹焚火の見所は、幻想的な美しい焰。牡丹焚火は俳句歳時記（角川書店）に冬の季語として収載されています。（「牡丹焚火」以外にも「牡丹焚く」「牡丹供養」などの言い方があります。）地方の行事が季語になることはとても珍しく、県内では、相馬野馬追・松明あかし・牡丹焚火の3つが季語になっています。私は2年程前から俳句をやっているので、いつか「牡丹焚火俳句大会」で賞をもらいたい！（184字）

ココがポイント！（一番お勧めしたい魅力的なところ）

- 夕闇の中で揺らめく、優しく美しい炎と会場の雰囲気
- 吉川英治の小説「宮本武蔵」にも取り上げられている

作成者名（ニックネーム可）

DAICHI